

PVC News No.121 号を発行しました

2024 年 4 月 24 日
塩ビ工業・環境協会

塩化ビニル環境対策協議会(JPEC)は、4 月 10 日に機関誌「PVC News No.121 号」を発行しました。今回の特集は、塩ビ素材の特徴を活かして生活を豊かにする製品のコンテスト「PVC Award 2023」の受賞者を中心に作品の開発コンセプトや苦労話、社会貢献や将来の方向性などを取り上げました。特にインタビューでは、取り組まれた皆様の「良い製品作り」に本気で取り組む気概と熱い思いを紹介しています。

特集では、昨年度実施した PVC Award 2023で準大賞、優秀賞および入賞した作品の開発者から苦労したことや、開発秘話、これらの製品への強いこだわりなどを紹介しています。【準大賞】は、施工性と耐久性を両立した大型建物用大容量雨とい「超芯 V-MAX」を開発した積水化学工業(株)です。施工性と耐久性を両立した繊細で高度な技術が評価されました。【優秀賞】は、芯が見えるボール「hinomarc.(ヒノマール)」です。製品企画は A to KA(アトカ)、製作は(有)高木商店で、構想10年以上、完成までの道のりと画期的なアイデアを支えた空ビ製作のノウハウについてお聞きしました。最後は入賞作品のなかから、アキレス株式会社のシート同士が密着しない塩ビシート「サラリアシリーズ」です。



大型建物用大容量雨とい「超芯 V-MAX」

シート同士が密着しない「サラリアシリーズ」



芯が見えるボール「ヒノマール」



「インフォメーション」コーナーでは、産学共同プロジェクトとして、上田服飾専門学校と塩ビブーツを製造販売している森川ゴム工業所とのコラボレーション企画を紹介しています。今回は、無色透明な塩ビ素材のレインブーツを 20 名の学生が発想豊かな



アイデアでデザインしてくれました。塩ビならではの光沢・触感を活かし、透明度の高いものからスモーギーグラスを連想したカラフルな作品などを紹介しています。森川ゴム工業所とのコラボ企画は今回で 7 回目となり、「回を重ねるごとに良いデザインが仕上がり、コラボ企画全体としての完成度が高まってきている」とのことでした。

上田学園コレクションで展示されたレインブーツ

続いて、塩ビ製の雑貨を製造されている(有)シンコウクラフトを取材し、塩ビ製品の加工の代表的な技術である高周波ウェルダー加工を使った塩ビ製ポーチを紹介しています。



立体的なポーチ



丸型やスクエア型のポーチ

(有)シンコウクラフトは高周波ウェルダー加工のプロフェッショナルで、時代の流れに合わせて二万点以上の製作実績を重ねています。高周波ウェルダー加工の特長は縫製加工と比べてミシン穴がなく強い溶着で水漏れや破れに強いこと、溶着と切断が同時に行えるので効率的な作業と美しい仕上がりが得られることです。当初より画期的な加工方法で人気となり、今では日常生活に浸透し、身近なポーチや文房具類などに多用されています。最近の主力製品は、キャラクターをプリントしたファンシーグッズでポーチ類となっています。取材をした代表取締役の筒居氏によると、透明度が高く、固さを自由に制御できるのは塩ビの特に優れた特徴です。時間がたっても変色しない、製作にあたって傷がつきにくく、折り曲げ時のしわも残りづらいので、塩ビほどいい素材はないとのことでした。

以上